

## 特定外来生物 **クビアカツヤカミキリ**とは

### 分類 ぶんるい

和名：クビアカツヤカミキリ

学名：Aromia bungii

コウチュウ目（鞘翅目）カミキリムシ科

### 特徴 とくちょう

成虫の全長は2.5～5cm前後。身体が全体的に光沢（ツヤ）のある黒色で、前胸部が赤色で小さなトゲのような突起がある。雄の触角は長い。また、成虫は麝香のような甘い匂いを放ち、別名としてクロジャコウカミキリと呼ばれる。

### 生態 せいたい

市街地の公園や街路樹などの人工的環境のほか、果樹園などの農耕地を含んだ里山環境にも生息する。多くのカミキリ類同様食性でサクラやウメ、モモなどのバラ科の樹木に寄生する。生きた樹木に産卵し、孵化した幼虫は内部を食べながら穿孔する。繁殖力が高く、1個体でおおよそ300個ほど産卵できる能力がある。幼虫は2～3年で成虫になって脱出する。幼虫が侵入している樹木からはうどん状 or ミンチ状のフラスが排出される。フラス排出期間は4～10月、成虫は6～8月にかけて発生する。日本国内における天敵は不明だが、目立つため鳥などの捕食を受けている可能性がある。

### 被害状況 ひがいじょうきょう

サクラやウメ、モモなど主要なバラ科樹木に寄生し、枯死させることによる農林業への経済的被害が問題視される。他のカミキリムシ同様、幼虫が樹木の穿孔害虫として内部を食い荒らす。在来種に比べて繁殖力が高く、成虫の飛翔力も高いため被害が拡大しやすい。

### 対策実施状況 たいさくじっしじょうきょう

主要なバラ科樹木を加害し、枯死させることによる経済的な被害とその旺盛な繁殖力や分布拡大能力が危険視され、2018年1月より特定外来生物指定を受けている。2019年時点で1都1府7県で生息が確認され、大阪府内では富田林や河内長野など南大阪を中心に11市町村での定着が確認されている。侵入地域では公園や学校、街路樹のサクラ（ソメイヨシノ）のほか、ウメやモモへの被害が発生しており、現在も分布が拡大しつつある。対策としてメッシュ網や人力による成虫の捕殺、農薬による穿孔幼虫の駆除が推進されている。



くわしくはこちら

### 防除対策 成虫の捕殺 ほうじょたいさく・せいちゅうのぼさつ

成虫は6月ごろから8月にかけて出現する。成虫を見つけたら、網や手で捕まえ、踏みつぶすなどして速やかに駆除する。踏みつぶすのが苦手な場合は殺虫剤などをかけて駆除します。

成虫の標本



メス



オス

写真提供 緑ヶ丘 大門 聖氏

お問い合わせ先：河内長野市環境経済部 環境政策課 電話：0721-53-1111  
ホームページアドレス：<https://www.city.kawachinagano.lg.jp/soshiki/14/1857.html>